

其茶器ノ由緒ハ何レニモ致セ、當時歴々ノ細川家ニテ賣拂ハレ候ト有ナレバ、別條之無事也、所望ノ者ハ勝手次第買取ベシ、代金等ノ事相濟シ上ニテハ我等モ一覽スベシ、名ノミ聞及ビタル計リニテ今迄見ザリシニ、幸ノ事ト申サレシ故、扱ハ氣遣ヒナシ、有徳成者ドモ争ヒテ求メケル、右金子早々大坂へ持セ遣シ、米麥ヲ始メ、何ニ因ズ食ニ成ベキ品々ヲ金子限りニ買調へ、船ニテ小倉ニ差下シ、殘ラズ領中へ分ケ與ヘシ故、大勢ノ者共飢ヲ助リケルト也。

〔明良洪範〕^四、榊原康政嫡子遠江守康勝死去、實子有シカド、子細有テ隱セシ故、家斷絶ニ及ントス、弟忠政大須賀ノ養子ナリシガ、養家ヲ捨テ實家ヲ繼グ、稱號ヲ給リテ松平式部大輔ト云、徳川家ノ士大將トナリ、播州姫路ヲ給リシ所、勝手甚不如意ナリシ故、所持ノ名器ヲ賣レシ、其中ニ天下ニ沙汰セシ名物ノ茶入アリ、京極丹後守廣高望ミテ金一萬兩ニ買レケル、式部ハトテモ天下ニ恥ヲ晒ス上ハ、右一萬兩ヲ錢ニテ申受度ト望レシ故、江戸中ノ錢ヲ買入、車數千輛ニ積送ラレシ、式部ハ是ヲ以總家士ヲ救ヒ、廣高ハ領内ノ民百姓ヲシエタゲテ、己ガ樂ミヲ極ム、其頃世上ノ評ニ、式部名器ヲ捨テ名ヲ天下ニ上シト云リ、

〔大猷院殿御實紀附録〕^四おなじ正盛^{○堀}が亭へ渡御ありし時、床の上に嚴子陵の壺といふ名器を陳設せしを見玉ひ、御けしき損じ、かゝるよき壺を公に獻せずして世に出すは、長崎奉行唐物査檢至らざる處なりと仰有て、彼地に仰下されしに、その時の奉行は誰なりしや、元より茶技こころ得ねば、とかく茶には、まがりひづみし物を尊むと承れば、船載の内にて、異様の物のみ撰みて公に獻り、その外尋常の品は奉らざるよし言上す、老臣等相議し、此事御聞に入なば、尙さら御けしきあしかるべし、されどもせんすべなくて聞え上しに、はたと御手を拍て大に笑はせられ、げに茶技心得ぬ者はかく有べしとて、以前とは引かへし御様なれば、みな公の喜怒、その節に當らせらるゝを感じ奉りしとぞ。